



海を守るために理解・行動・未来の3本柱で展開する活動!

三方を海に囲まれる千葉県は、観光・産業・生活の面から海は切り離せない。そして海洋ごみ問題はそれを脅かす切実な問題にも関わらず、県民への周知や理解・行動が進んでいない。本プロジェクトでは「周知・理解のために」大規模なイベントとの連動し、「実際に行動してもらうために」拾い箱や一斉ごみ拾い、更に「未来へつなぐために」若い世代への周知・啓蒙活動と、3本柱でこの海洋ごみ問題を改善していくための展開を進めている。

2023年度 実施状況について

イベント連携



- 概要** 日本最大のフリマで3R展示とエコ素材食器4万個でごみ減
- 目的** 3Rの周知と実践の為、4万個のエコ素材食器で食事提供。
- アピールポイント** リサイクル意識の高い来場者多数に体感・共感を与える
- 効果** 4万食分で約800キロのプラごみ削減と合わせて4万人へのアプローチを実現。3Rブースでのアイアンスフォーザブルー等の展示でも、随時リサイクル商品を手取る人が訪れて、関心を示していた。

拾い箱



- 概要** 県内5ヶ所のサーフショップに拾い箱を設置
- 目的** ごみ拾いの習慣化と拾い箱の認知及びごみの実態調査
- アピールポイント** 拾い箱が定着してきて周辺ごみの減少や参加者の増加へ
- 効果** 設置後ごみ拾いの人数が増加傾向。海岸以外に店舗周辺や駐車場など、街ごみの減少もみられ、浸透してきている。ごみ調査の結果:今回ヶ所で2~3日間のごみの収集状況は約150個。殆どがプラ片やビニール。ペットも多い。

行動変容



- 概要** 子供達への海辺の環境教室とビーチプラマネーごみ拾い。
- 目的** 子供が楽しくごみ拾いをしてマイクロプラの理解を深める
- アピールポイント** ビーチスポーツと海ごみ問題で海を楽しみ大切にすることを
- 効果** 悪天候で1日のみ開催に。約50人が参加。子供たちが見つけたマイクロプラは200個以上、5mm強のプラ片に合わせると800個以上。飲食券とマイクロプラを交換でごみ拾いが楽しかった子供達はイベント終了後もごみ拾いを行った。

教育機関連携



- 概要** 千葉県内の小・中・高校の校内放送で海ごみ啓蒙番組放送
- 目的** 若年層への海洋ごみ周知とそこから行動へ移すきっかけに
- アピールポイント** 学校との連携ルートがあり多数の県内校へ展開できる
- 効果** 小学校88校、中学校52校、高校34校。その他4校へ、約10分の海洋ごみについて学べるコンテンツをCDとして届けて給食時間に放送。11月末までで各学校にて放送を実施中。今後アンケートを集計予定。

海ごみゼロウィーク



- ごみ拾い参加人数** 約2,500人以上(継続実施中)
- 箇所数** 約30箇所以上
- アピールポイント** 千葉県内28ヶ所で一斉清掃を行った「日本まるごとごみ拾い」や「ジャパンビーチゲームズ」など、参加人数が多いイベント連動のごみ拾いが特徴。参加者が楽しみながらごみ拾いができるように、乗馬体験やライブなどのイベントや、子供が楽しめるごみを活用したワークショップ等、参加意欲が高まる施策を実施。

メディア露出



- メディア露出本数** 約130本(11月初旬まで)
- アピールポイント** 各活動のリリースでwebメディアに掲載された他、海野常務出演のbayfm特番や千葉テレビでの拾い箱の取材なども放送。



2023年度の課題とこれからの展望

拾い箱は3年目となり、各地で定着してきていることで、年々ごみを拾う人や回収するごみの量も増えている。ただ数の推移などのデータの蓄積がなかったため、今期から少しずつデータ蓄積を進めている。今期の活動の中で、千葉のビーチで予想以上のマイクロプラスチックを子供達が発見した。今後はこれを深掘し「マイクロプラスチック」と「子供達への環境教育」をポイントに展開し、家族で楽しく海洋ごみ問題に取り組み、実際に行動に移すことを目標として活動を進めたいと思う。